

自己評価票

- 自己評価は全部で101項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	23
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	101

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームこうなん
(ユニット名)	第2グループホームこうなん
所在地 (県・市町村名)	新潟県長岡市
記入者名 (管理者)	小林 正章
記入日	平成 21年 7月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「生きがいと安らぎのある暮らし」を理念に掲げ、実践に努めている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	1回/月のミーティングの他、日々の業務において意見交換を行い、理念の実践について確認している。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	3回/年発行の広報誌、1回/月の家族宛てのおたより、また、運営推進会議を通じ、家族や地域の人々に理解していただけるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩等を通じ、近所の方と挨拶や会話をしている。また、季節の野菜や山菜を分けていただく等、地域の人々と関わりがある。	○ 気軽に近所の人々が来園し、一緒にお茶を飲んでいただけるような関係づくりを築いていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域行事や施設行事への参加、近隣の小中学校、幼稚園の慰問等を通じて交流を深めている。また、納涼祭は地域の人々と協力しながら施設と地域が一体となり、毎年開催している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じて、認知症の理解や認知症ケアの現状について話し合いを行い、また、認知症の相談も受けている。	○	認知症やケアに関する相談、勉強会等を通じて、地域の人々と直接話し合えるような機会をつくっていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行うことで、サービスの質の確認を各自が把握するようにしている。外部評価の結果はミーティングで報告し、改善すべき点についても意見を出し合い、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所の活動内容を中心に報告を行っている。また、委員の方から意見をもらい、今後の活動に活かせるよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営体制や防災体制に関する事項等について、市の担当者と連絡をとり、相談、意見をもらう等、連携を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ職員もいるが、全職員が理解できるレベルになるためには学ぶ機会が少ない。	○	研修や勉強会等、学ぶ機会を持ち、確実に活用できるような知識を得る必要がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に参加した職員は、その内容についてミーティングで報告する等、全職員が学ぶ機会をつくるように取り組んでいる。また、ミーティング時に職員間で利用者の関わり方について確認し合い、意見交換をしている。	○	今後も研修や勉強会等に積極的に参加していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書と重要事項説明書、金銭管理規程をもとに説明を行い、家族より同意を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者とのコミュニケーションの機会を通じて、意見、要望、苦情等を聞くようにしており、職員間で情報を共有し、サービスに反映している。また、市の介護相談員の派遣を受け入れることで、利用者の相談を受けていただく機会を設けている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日常の様子を、毎月のおたよりや家族の面会時に報告している。また、受診時の結果は毎回、金銭管理、健康状態、職員の異動等については随時家族に報告をしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等の面会時や必要な電話連絡をした際に、意見、要望等を聞くように努めている。出された意見、要望等はミーティングで話し合い、サービスに反映させている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>1回/月のミーティングの他、日頃からも職員の意見、要望等を聞いたり問いかけたりしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や受診、利用者の個別対応等、状況に応じた勤務調整を、管理者を中心に職員間で行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>顔馴染みの職員によるケアを心がけており、やむを得ない人事異動があっても利用者の支援体制に影響がないように努めている。</p>	<p>○ 昨年度末から今年度の初めにかけて大幅な人事異動が行われたが、段階的に行われたこともあり、利用者には大きな混乱は発生しなかった。また、異動や新規採用等の職員に対しては、利用者個別の必要な支援等、適切に指導し、異動前と変わらないサービス提供ができるよう取り組んだ。</p>
18-2	<p>○マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>ファイルで整備、保管されている。見直しについてはミーティング時や必要時に適宜行っている。</p>	<p>○ 新規の職員が、今までよりも早く業務の内容を把握できるように業務マニュアルを見直し、新しいものを作成した。新しい業務マニュアルは実際に活用してもらっている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、必要な研修を受ける機会を確保している。また、法人内においても各委員会が開催する研修会に参加する機会もあり、知識、技術等の向上に努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの協会関係等、同業者ネットワークには加入しているが、地域の同業者との交流研修をする機会はない。情報交換等については他の事業所と連絡をとる等、適宜行っている。	○	地域の同業者との定期的な交流を持つことで情報交換を行い、より質の高いサービスを提供していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、管理者、職員の意見、要望等を聞き、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。また、人間関係の把握にも努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得も含め、職員の向上心に対する職能評価を行っている。また、適材適所を考えた労働環境づくりに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	居宅の担当ケアマネジャー、および家族から必要な情報を得た上、事前訪問を行い、生活状態の把握や本人の話を傾聴することで不安や要望等を受け止め、理解しようと努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問等で、本人の生活状態と合わせながら、家族が困っていることや不安なこと等を傾聴し、安心、納得できるように話し合いをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にグループホーム利用が適切かどうかも含め、本人、家族の現状から必要としている支援について検討し、他のサービス利用を提案する等、対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、見学を兼ねて他利用者や職員と一緒にお茶飲みをしながら雰囲気を感じとっていただいたり、本人、家族からの事前情報をもとに、馴染みやすい環境づくりに配慮しながら、無理のない程度で他利用者との関わりを増やすようにしている。また、本人の状態を考慮しつつ、外出、外泊の機会をつくる等、家族と相談しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事づくり、畑仕事等、利用者との協働の場面を通じて、お互い助け合う気持ちを大切にしている。	○	今後も利用者の力を活かしつつ、利用者と職員が支えあう関係づくりを大切にしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密接にし、面会時や電話、おたより等を通じて情報の共有を図り、協力しながら本人を支援していく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月のおたよりで近況を報告し、外泊、外出を勧めたりしている。また、家族参加の行事を計画実施している。	○	「母の日」、「懇親会」等、家族に参加していただいたが、利用者、家族共にとても好評であった。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔馴染みの美容院に通い続けている利用者がある。また、知人、友人等の面会もあり、今後も継続した交流が保てるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	様々な場面で利用者同士の支え合いや、関わりがみられる。また、孤立等がないように仲の良い利用者同士が過ごせる配慮や、世話好きな利用者にうまく力を発揮してもらえるよう、配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された利用者家族との関係の継続は特にない。	○	退居後も継続的な関係を必要とし、希望する家族にはきちんと対応していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話から希望や意向を聞き、支援している。また、困難な場合には本人の日常の様子をもとに検討し、本人らしい生活が送れるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報やインテーク表を参考にしたり、本人や家族の話を聞くことで、その情報を職員間で共有し、在宅で生活していた環境づくりにも配慮している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの状態把握に努め、日頃の行動から生活のリズムを理解するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状態に合わせ、日頃の会話から希望や意向を聞いたり、家族からも面会時等に希望、意向を確認するようにしている。また、1回/月のミーティング時にも利用者個別の支援について話し合い、改善に努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、見直しを行っている。また、利用者の状態に合わせた支援ができるよう家族や職員間で話し合い、計画の作成時に活かしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に日々の様子等を細かく記入し、併せて連絡ノートを活用することで共有している。また、それらをもとに介護計画の見直しや評価をしている。(1回/月モニタリングも実施)		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の意向にそった柔軟な支援ができるよう、職員間で話し合い、取り組んでいる。また、健康面においてもかかりつけ医に相談する等、連携しながら支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の場で、地域の自主防災組織や民生委員と意見交換する機会を設けている。	○	運営推進会議を通じて、多方面と協力できる体制づくりに取り組んでいる。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族の意向や状況状況に応じて、市の紙おむつ等の支給サービス、訪問歯科診療のサービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、情報、意見交換を行う等、協力関係を築いている。	○	情報、意見交換を行うことで、当事業所の運営等に関する再確認ができるようになった。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望している医療機関で受診をしている。また、必要時には往診してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に対し、相談、助言をもらえる医師を確保している。	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日中、利用者に状態変化等があった場合は、併設の本体施設の看護職員に相談することはできるが、日常的に気軽に相談できる体制づくりはされていない。	○ 看護職員の確保等も含め、特に夜間帯において対応できる体制づくりが必要。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は病院の担当ケースワーカー等、関係者と情報交換を行い、早期発見に向けた対応に努めている。また、かかりつけ医に本人の状況を伝える等、退院後の対応について相談している。	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について、本人家族とも話し合い、かかりつけ医と相談しながら方針を決定、支援を行っている。	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に備え、かかりつけ医に今後の対応について相談している。また、家族と話し合い、重度化した際の支援について相互協力が図られるよう努めている。	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設等に移り住むことになった場合、移行先のケア関係者に本人のこれまでの生活環境、必要な支援、習慣等、情報提供を行い、本人、家族とよく話しながら移行先でも継続した生活が送れるよう、取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの個別性を考慮し、声かけや対応については十分注意を払っている。また、記録等については施錠できる場所に保管し、職員等、関係者以外の目に触れることがないようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の一人ひとりの思いや希望を傾聴し、力量に合わせた説明を行っている。また、衣類の選択や買い物での食材の選択、外食時のメニューの選択等、自己決定の場面づくりをし、支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせることなく、一人ひとりのペースで希望にそうことができるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	顔馴染みの美容院に行き、パーマや毛染め等、希望に添えるよう支援している。また、化粧をして、おしゃれを楽しんでいただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が希望した献立を取り入れたり、食事づくり、片付けにおいて、一人ひとりが力を発揮できるよう支援している。また、一緒に食事をしながら、楽しい雰囲気づくりを心がけている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好を把握し、おやつや飲み物の希望を聞く等、状況に合わせた支援をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のチェックをしたり、声かけやトイレ誘導をしたりすることで排泄の失敗を軽減し、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりが希望する時間帯に、入浴が楽しめるよう支援している。また、声かけのタイミングにも考慮し、気分よく入浴していただけるよう努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時の気分、状態に合わせて、ゆっくり休息がとれるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのできることや得意なことを把握し、食事づくりや掃除、畑仕事等でできることをお願いして、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力量に応じ、家族の了解を得た上で少額を所持している。本人と買い物と一緒にいき、本人が欲しい物を購入する際には支払っていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や顔馴染みの美容院へ行ったり、5回/週のペースと一緒に買い物に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者が個別に「行ってみたい」、「家に帰りたい」等の要望があった場合は、出かけられる範囲で外出する機会を設けている。	○	「どこかへ行きたい」という希望があった場合には、できるだけ機会をつくり、出かけるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の力量に応じて電話の使用をしていただいている。また、手紙を出したい利用者には切手やはがき等、必要なものを用意する等の支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者と家族、知人がいつでも居室、食堂や小上がりで談話できる環境づくりに配慮し、気軽に訪問していただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員、身体拘束のないケアを実践するため、利用者の行動をみながら拘束せずにする支援について考え、取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、施錠をせずに所在確認に努めている。外出しそうな利用者の様子がみられたら状態を把握し、いつでも対応できるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のそばで記録を書いたり、台所で食事づくりをしながら、利用者の状態の把握に努めている。夜間は定時に様子を確認する他、状況に応じて保安、見守り等を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状況に合わせ、必要な物品を置いている。利用者の力量にもよるが、注意の必要なものは利用者の状況変化に応じた保管、管理に取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、誤嚥のリスクが高い利用者への対応について、ミーティング時に職員間で情報交換をし、事故防止に取り組んでいる。また、行方不明の防止についても法人内の他の事業所に利用者に関する情報を伝え、対応の協力をお願いするようにしている。	○	特に行方不明等により、他の事業所からの協力が必要な際は、作成してある利用者の「個人票」を法人内に回覧する等、情報が伝達できるようにしている。また、「個人票」への新しい情報の追記、および変更等による差し替えも適宜行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の訓練は行っていないが、昨年度より法人の防災委員会によるAEDの取り扱い、および心肺蘇生法の講習会が開催され、職員各自、参加している。	○	緊急時の対応については、ミーティングや時間の都合をみて訓練を実施するようにしているが、救急救命法の講習等、定期的な訓練の実施、参加が今後必要。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の自主防災会や消防署と合同で、利用者も参加した形での避難訓練を実施している。また、訓練を実施することで問題点を再確認し、その解決に努める等、利用者が円滑に避難できるよう取り組んでいる。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクを伴う体調変化や事故があった場合、家族に連絡を取り、今後の対応について話し合っている。また、リスクについてもその都度説明し、理解を得られるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の検温等、バイタルチェックだけでなく、日々の様子をみながら体調変化の早期発見に努めている。変化等、気付いたことがあれば記録や連絡帳で情報を共有し、かかりつけ医にも情報提供している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	治療薬マニュアルやファイルで薬表を整理、作成し、利用者の服薬内容を確認、把握できるようにしている。また、服薬後の経過について必要な情報をお知らせし、かかりつけ医に報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分は多めに牛乳等、乳製品を摂っていただくようにしている。ラジオ体操や掃除等、身体を動かす機会を設け、なるべく自然排便を促すように努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの力量や気持ちに配慮しつつ、毎食後の歯磨き等、口腔ケアを支援している。夕食後、義歯の利用者は洗浄剤を使用し、義歯洗浄を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当法人の管理栄養士の献立をもとに、栄養バランスを考えた、利用者の嗜好も取り入れた食事の提供に努めている。また、毎食後の食事量、水分量の確認を行い、利用者一人ひとりの摂取状況の把握に努めている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	当法人の感染対策マニュアルや取り決めのもと、予防への対応を実施している。利用者、および家族に同意をいただき、インフルエンザの予防接種を受けている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁、まな板、ふきん等は毎晩漂白し、除菌を行っている。平日は毎日買い物に行き、新鮮で安全な食材を買う等、なるべく買いためをしないように努めている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先やアプローチ上に花を植えたり、プランターを置く等、温かみのある雰囲気を出している。畑もあり、利用者と一緒に野菜づくりをする等、家庭的な雰囲気づくりに努めている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畑で獲れた野菜を使ったり、季節感の引き出せる食材を使った料理を利用者と一緒につくる等、家庭的な心地よさがある。食堂のテレビの音や職員間の声の大きさ等、利用者が不快にならないよう配慮している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前の廊下に椅子、テーブル等を置いて日向ぼっこをしたり、外の景色をみて過ごせるようにしている。また、食堂の小上がりで横になり、休めるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りにベンチがあり、散歩時はそこに座って日光浴を楽しんでいる。また、畑があり、野菜づくりや草取りをして活動できる環境となっている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- (1) 利用者一人ひとりの希望をできる限り取り入れ、外食、買い物、理美容等を通じて自己実現の場を提供している。
- (2) 食事づくりや買い物等、家事活動は「共に行う」ことを大切に利用者との関係づくりに努めている。
- (3) 利用者一人ひとりの「できること」を見極め、協力し合いながら役割を持って「その人らしさ」が発揮できる場面づくりに努めている。
- (4) 「母の日」や「懇親会」に家族が参加していただく等、共に過ごせる機会を設け、利用者と家族が今後も良い関係が保てるよう取り組んでいる。
- (5) 利用者職員が共に楽しみながら、笑顔あふれる場であるよう、日々の関わりを大切にしている。